九州建設情報社

福岡市設計測量業協会「令和８年度技術講習会」開く
測量技術の進化と現場課題への対応



新しい技術動向に集中し、講師の説明に聞き入る受講者

福岡市設計測量業協会（宗道昭会長）は１０月３０日、「令和８年度技術講習会」が福岡市健康づくりサポートセンター（福岡市中央区）で行われ、福岡市職員、測量関係者ら約３０人が参加した。



挨拶する宗会長

開会にあたり、宗会長（㈱昭和建設コンサルタント）は「本日は「令和８年度技術講習会」にお集まりいただき、誠にありがとうございます。本日の講習を通じて新しい技術や知識を学び、今後の業務に活用していただきたい」とあいさつした。

講演Ⅰでは、九州ベルテクス㈱の山本潔技術部マネージャー（斜面防災事業部）が「落石防止柵ループフェンス等の構造と施工精度管理」をテーマに登壇。崩壊土砂防護柵の特徴や施工実績について、実験画像を交えながら説明した。講演Ⅱでは、㈱クリコンの平尾慎也氏が「推進工法の選定手法と精度管理における管内測量技術」をテーマに取り上げた。推進工法の長所・短所を整理し、シールド工法との違いや施工事例を交えながらポイントを解説した。講演Ⅲでは、日之出水道機器㈱の徳江均所長（九州営業所）が「（Q）ＧＩＳマッピングで実現する「見える化」と管理手法」と題して講演した。マンホール蓋が持つ特性や、事故・不具合の事例画像を示し、現在の維持管理における課題を提

示。さらに、データベースの活用や具体的な管理手法に触れ、膨大なデータを地図上に可視化することで、空間的な偏りの把握やエリア分析などを可能にするＧＩＳマッピングの有用性を示した。講演Ⅳでは、㈱ＳｕｒｖｅＬｉｆｅの鵜飼尚弘氏が「最新の測量機器の動向と社会課題への応用」をテーマに、海外で活用されている測量機器を画像とともに紹介。技術の変遷を振り返りながら、測量技術の進化や今後の展望に触れた。また、国内の空間情報を取り巻く環境について、データの「整備」から「活用」へと重点が移り、実務で利用できるデータのオープン化が進んでいる現状を説明した。

講演Ⅴでは、アイサンテクノロジー㈱の松永健一所長（測地営業本部 西日本測地営業部九州営業所）が「３次元点群測量の特性による活用と各種図面作成への応用」と題して講演。従来の測量手法と比較しながら、ハンディ型レーザースキャナーによる計測の効率化や点群データの活用方法を紹介した。取得した点群データの解析・編集から測量成果や各種図面の作成につなげる流れを示し、現場計測の省力化や作業時間・コストの削減など、３次元点群測量の導入効果と活用の可能性を伝えた。参加者は各講演に熱心に耳を傾け、最新技術や具体的な活用事例を通じて、今後の業務への応用に理解を深めた。